

上 田 勉

7月10日の参議院選挙の結果、喜んでいる人もショックを受けている人もいます。この通信は、ショックを受けている人に読んでもらいたいです。

○【選挙区】東北6県 野党統一候補 5勝1敗（1敗は秋田）—TPPにNO！

参議院選挙の結果は、改憲勢力が3分の2を占めると言う、大変な結果になりました。しかし、東北では、全国と反対の結果になりました。東北6県では、野党統一候補が5勝1敗で、与党に圧勝しました。今まで自民党の集票マシーンの1つだった農協の政治連盟が、TPPと農政改革に反対して、今回は自民党推薦から、自主投票になりました（福島を除いて）。今まで、自民党が議席を独占していた青森と山形では、野党が初めて勝利しました。自民党王国にヒビ割れが始まっています。

○岩手・宮城・福島の被災3県 野党統一候補 3連勝—安倍政治の復興に不信任、災害支援の自衛隊の戦争派遣にNO！

岩手・宮城・福島の被災3県では、野党統一候補が3連勝です。被災後、一番に被災者救援に来てくれたのが、自衛隊です。被災者は、自衛隊員への感謝を一生忘れません。だからこそ、自衛隊員が戦争に行き、人を殺し殺されることには、絶対に反対です。

自衛隊の駐屯地がある三沢や松島では、自衛隊員の家族から、「息子が戦争に行かされるかもしれない。今度だけは野党に入れる」と言う声が、野党候補に寄せられました。

○福島 原発容認の現職閣僚（岩城法務大臣）を落選させる—原発再稼働にNO！

福島は定数が、2人から1人になりました。自民党も民進党も原発再稼働容認なので、現職の2人の候補者、岩城法務大臣と増子輝彦議員（民進党）は、原発容認でした。しかし、増子氏は野党統一候補になるに当って、「自分は今まで原発の安全神話に漬かっていた。」と自己批判をして、反原発の立場に変わりました（市民が変われば、政治家も変わる）。

安倍首相は、選挙期間中2回福島に入りました。憲法と原発のことには一言も触れずに、野党攻撃に終始しました（一国の首相なら、これからの日本のあり方について演説してもらいたかった）。最終盤には、与党の得票が野党よりも下回った自治体には、復興交付金が減らされる、という噂が流れました。それでも、増子候補が僅差で当選して、オール福島は、再度原発再稼働にNO！を表明しました。

○「比例」本県（福島）出身の当選者は、岩淵 友氏（共産党）だけでした

被災地・自衛隊・TPP、原発・アベノミクス、そして、中央と地方の格差・少子高齢化と過疎化が進む、現代社会の縮図である東北で、辛抱強い東北人の多くは、自分達の将来について、今回は政権与党ではなく、野党共闘に、自分達の将来を委ねたのです。

【主な政党の福島県での比例の得票数】

自民	民進	公明	共産	改革	維新	社民	生活
298,848	250,194	96,862	92,374	45,586	30,305	28,670	16,313

【原発容認の現職閣僚（岩城法務大臣）落選—自民党に衝撃走る（檜葉町）】



【仮設住宅での投票—（檜葉北小学校・南小学校・檜葉中学校の仮設体育館（いわき市））】



「アベノミクスは道なかば」（安倍首相） “道なかば 下から読めば ばかな道”